



県南西部に位置し、関東一の水質を誇る清流・神流川と西上州の雄大な山々に抱かれた神流町。豊かな自然環境を生かしたまちづくりに取り組む一方、情報通信技術(ICT)の活用を積極的だ。そんなまちづくりの一環で、希望する全戸にスマートスピーカーを無料配布し、町民の利便性向上を目指す事業を展開。誰もが安心してICTの恩恵を享受できる環境が整いつつある。

神流町

人口減に負けない ICTを積極活用



少人数でも質落とさず
神流町長 坂本英夫

神流町は自然環境を生かした「お金を稼げる仕組みづくり」を町の柱に据え、町産材のブランド化やPR拠点の開設、道の駅「万葉の里」のリニューアル、みかほ高原オートキャンプ場整備などを進め、雇用創出や関係人口の増加に取り組んできました。これを発展させ、「任んで良かつたと思つていただける地域づくりを進めています。」

目標を実現する方法の一つがICTの活用です。国の動向を見据えながら地域の実情に応じた実効性の高いデジタル化を目指しています。ICTの活用は生活利便性の向上につながるだけでなく、効率化により生まれた人材や時間を住民に寄り添った対応に生かすことが可能となります。ICTを活用したまちづくりスマートタウン構築事業の第一弾として本年度、全戸にスマートスピーカーを無料で配布し、高齢者の見守りや情報発信に役

全戸にスマートスピーカー

福祉協議会の職員が自宅を訪問せずに高齢者の体調を確認したりできる。AIを活用して「み出し」や診療所の開設日、路線バスの情報などあれば、いつでも検索できる。また町民の問い合わせに24時間対応することも目指す。

昨年度、町は区長を対象とした説明会を開催した。サービス提供元のNTTビジネスソリューションズ(大阪市)の社員が使用方法を説明。町民に先行して区長にスピーカーを配布した。住民への配布は12月ごろにスタート。デジタル

スマートスピーカーの配布に合わせて開催した説明会



役場への問い合わせや職員との打ち合わせも自宅にいながらできる



クマの出没や災害時の避難所開設、熱中症への警戒地域行事に関する情報などを町が発信すると各戸のスピーカーに通知が届く。町民は言葉で聞いたりしながら相談したり、町や社

機器の扱いに慣れていない高齢世帯が多いため、各地区で説明会を開催したほか、設置する際には各世帯に届いて使い方を説明した。

町民の評価は高い。80代の男性は「思っていたより簡単に便利」と使い勝手の良さを感じた様子。町政情報の受発信だけでなく、AIとの「対話」を楽しんでいるという60代の女性は「例えばその日が『○○の日』だとすると、関連した話をしてくれたり、質問にも答えてくれたりする。人間と会話しているような感じ」と笑顔をみせる。スマートスピーカーが共通の話題となり、町民同士の会話も弾むという、毎日の生活になくてはならないものとなっているようだ。

町職員の減少が予想される中、町はICTを活用して高齢者に優しく、少人数でも質の高い行政サービスの維持を目指している。その一環として本年度、役場1階を大幅に改装した。職員が自身の席に保管していた紙の資料や私物などを別室に移動してスペースを確保、訪れる町民が多い保健福祉課を階から1階に移した。

担当者は「事務スペースのリデザインを通して無駄をなくし、仕事の進め方も見直している。人数が減っても職員の能力を引き出し、仕事の効率化を進めることで、時代に対応できる組織にしたい」と話している。

立てる取り組みを始めました。区長への先行配布や町民向け説明会を経て、希望する全戸への配布をほぼ終えました。皆さまの意見を聞きながら、少しずつ活用の幅を広げていきたいと考えています。

町が目指しているのは、高齢者に優しく、少ない人数でもサービスの質を落とさず提供できる人口減少時代に即した組織をつくることです。日々進化する技術を活用することで、物理的には離れていてもより町民に寄り添ったサービスを提供できるよう努力してまいります。

町職員の見守りや情報発信に役

地域の力 応援キャンペーン ぐんま愛 協賛社 (順不同)
